

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600588
法人名	株式会社エルダーサービス
事業所名	グループホーム 牧水の丘
所在地	福岡県北九州市八幡東区東鉄町5番20号 (電話) 093 - 652-6688

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年10月7日	評価確定日	平成20年11月11日

【情報提供票より】(平成20年9月16日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人, 非常勤 0人, 常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	2階建ての1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費) 20,000円	
敷金	有(80,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,667円			

(4) 利用者の概要(9月16日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89.1 歳	最低	82 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック / 新日鐵八幡記念病院 / 藤崎歯科医院
---------	-----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

七条バス停を少し山手に登り、桜の名所・荒生田公園内に、豊かな自然環境に恵まれたグループホーム牧水の丘が立地している。牧水ゆかりの地として牧水の歌碑があり、文化的な歴史を物語る環境となっている。グループホームは、大正・昭和の雰囲気や趣深い建物で外観はそのままに内部はバリアフリーに改築し住みやすさを確保しながらも入居者と歴史を伴にした観がある住まいである。管理者・職員は、八幡東区の街なかの利便性の良さを活かし、美術館やドライブなど外出を楽しんでいただけるように支援し、職員が外出する際にも、入居者の方は必ず1人は一緒に出かけるなど、外出の機会を活かした取り組みを行い、入居者が生き生きと過ごせるように支援している。また、ホームはエルダーサービスグループが運営母体となっており、グループ内の3つのグループホームと定期的に勉強会を開催するなど、ケアやサービスの質の向上を高めるために日々切磋琢磨している。管理者と職員は入居者のこれまでの暮らしを尊重し、地域の中で日々穏やかに生きがいを感じていただけるように支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>アセスメントの段階で本人・家族の希望や要望の聴取が不十分であったため、1年間を通じて介護計画・記録の検討・修正を行い、その結果、記録をわかりやすいように改善している。その計画をもとに個別的な支援・評価・モニタリングと一連のケアマネジメントが連動し、ケアの質の向上につながっている。今後も更に内容の充実を期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価については職員の意見を聞き、取りまとめている。自己評価により、日々のケアやサービスの振り返りができ、検討事項や追加事項など改めて確認でき、このことがサービスの質の向上につながると考え、評価の意義を十分に理解し取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族の方々も高齢になり、会議への参加が難しいが他の委員の方々も積極的に参加していただいている。会議は委員の日時の都合上、牧水の丘と牧水の丘で合同で開催している。内容は相談や意見交換などであるが、防災についての提案があったり、地域の情報も得られ、地域との交流の場となっている。また、会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるように努力している。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>玄関に投書箱を設置している。折にふれ苦情申し立ての窓口についても知らせている。また、介護相談員を受け入れ、入居者の相談に応じる機会もつくっている。特に申し出はないが遠慮されてる方も多いため、外部評価のアンケート結果なども参考に検討し、入居者や家族の意向を把握し対応していきたいと前向きに取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、回覧板などで地域の情報を得て行事などにも参加している。地域の方々も、グループホームの消防訓練や行事に参加していただき、近郊の高齢者の方も時々ホームへ足を運んで話をしていられるなど、地域との交流・ふれあいの機会を多く持てるように努めている。ホームの方でも、北九州市の「家族介護教室」を積極的に受託しており、ホームについてや認知症についての理解を高める取り組みを行っている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域密着型サービスの意義を理解し、一人ひとりがその人らしい生活をホーム内で送ってもらうのではなく、地域の活動などに参加する支援を行うことを方針としている。日々の暮らしの中で地域との連携を積極的に図っているが、理念の中に地域との関係性を具体的に示す内容が求められる。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念については2階の事務室などに掲げており、毎朝のミーティングや定例会で必ず唱和し、初心を忘れずに日々の業務に理念を活かせるように取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	町内会に加入し、回覧板などで地域の情報を得て行事などにも参加している。地域の方々もグループホームの消防訓練や行事に参加していただき、近郊の高齢者の方も時々ホームへ足を運んで話をしてくれるなど、地域との交流・ふれあいの機会を多く持てるように努めている。ホームの方でも、北九州市の「家族介護教室」を積極的に受託しており、ホームについてや認知症についての理解を高める取り組みを行っている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	自己評価については職員の意見を聞き、取りまとめている。自己評価により、日々のケアやサービスの振り返りができ、検討事項や追加事項など改めて確認でき、このことがサービスの質の向上につながると考え、評価の意義を十分に理解し取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	委員の方々には積極的に参加していただいている。内容は相談や意見交換などであるが、防災についての提案があったり、地域の情報も得られ、地域との交流の場となっている。また、会議で得た情報を検討し、日々の業務に活かせるように努力している。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	北九州市の担当者や地域包括支援センターの職員とは情報交換を行い、いつでも相談・支援を得られる体制となっている。また、北九州市の事業で家族介護教室などの講師依頼なども積極的に受託しており、行政との連携を高める努力をしている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	地域福祉権利擁護事業に関するセミナーに参加し、職員間で学習し、必要時に活用できるようにしている。エルダーサービスのグループホームに制度を利用している入居者が実在されているので、実際の対応方法を直接確認し、対応できるように知識を高めている。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	入居者のケアやサービス提供については担当制としており、月に1度家族へ手紙で生活状況・健康管理・金銭管理について報告している。また、体調面などで即報告が必要な場合は随時報告している。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に投書箱を設置しており、折にふれ苦情申し立ての窓口についても知らせている。また、介護相談員を受け入れ、入居者の相談に応じる機会もついている。特に申し出はないが遠慮されてる方も多いため、外部評価のアンケート結果なども参考に検討し、入居者や家族の意向を把握し対応していきたいと前向きに取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	ケアの基本方針をしっかりと立て、ケアの内容に変化がないようにしており、新しく入社した職員が入居者となじみの関係ができるまで、既存の職員がフォローし、職員の変更による入居者へのダメージを最小限に防ぐ配慮をしている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	必要な資格を取得していれば偏見を持つことなく採用している。各職員は能力を活かして業務が遂行できるように得意分野での役割分担を行っている。個人面接を行い、本人の意向を確認し、業務の中で能力が発揮できるように取り組んでいる。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	高齢者虐待や身体拘束などの外部研修を受けている。また、入居者の人権に配慮したケアを行うよう常に指導・教育を行っている。管理者としては、職員の人権への配慮も大切と考え、常に規範を守り、理念の遂行を第一と考え指導している。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	エルダーサービスグループとして年間の研修計画があり、定期的に毎月1回研修が行われ参加している。職員の資格取得については学習法を教えあったり、セミナー受講のための勤務時間の調整などサポートしている。また、職員の能力や意見を発揮できるように、毎日の業務では職員の意見を取り入れている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	エルダーサービスグループの4つのグループホームとは相互訪問し情報交換を行い、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。近郊のグループホームと情報交換を行っている。今後は、地域における同業者とのネットワークにより、認知症ケアの理解を育むなど期待したい。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居者の生活歴を把握し、常に会話をし、接する時間を多く持つように、なじみの関係を第一に支援している。そのために以前から使用している食器・寝具・家具などを持参していただき、必要時は家族への電話や面会で安心して過ごしていただけるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者との会話の機会を多く持ち、その人の生活歴や喜び・不安を共有し支援へつなげている。入居者一人ひとりの存在そのものが支えあう関係であり、日々の暮らしの中で入居者同士・入居者と職員が、お互いのお世話をするような関係が成り立っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>会話の機会を多く持ち、入居者や家族の思いや希望を聞いたり、日々の行動や表情からその真意を推しはかり、その中で、まず必要としている支援を見極め、可能な限り本人の望む生活ができるように検討している。職員は日々の思いや意向を記録し、1ヶ月に1度モニタリングを行い、その際に職員の気づきを含め検討している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一人ひとりがその人らしく暮らし続けるために、本人や家族の要望を第一に考え、入居者の視点に立ったケアについて関係者から気づきや意見を述べてもらい、入居者主体の介護計画を作成している。医療連携加算を取っているため、看護師による看護計画が求められ、医療面からの留意点など、介護計画に活かしていくことが求められる。</p>		<p>医療連携加算を取っているため、看護師による看護計画が求められる。医療面の留意点など介護計画に活かしていくことが求められる。</p>
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状況は絶えず流動的であるので、計画の見直しは期間に応じて行っている。入退院などで本人の状態に変化が生じた場合には直ちにプランの変更を行い、状態に合ったケアが共有できるように心がけている。また、新たな要望や変化がないようでも職員の意見を聞いて確認している。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>グループホームが2階建てのため、遠方の家族が2階に宿泊でき、入居者との時間を多く持つことができる。また、エルダーサービスグループの栄養士が献立を作成し、栄養面への配慮も行っている。母体組織が大きく、法人内のネットワークを活かし、必要な情報を得ることができ、柔軟なサービスを提供することができる。</p>		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>週1回かかりつけ医の往診があり、健康状態に問題が生じた際には受診するなど適切な処置を受けている。医療連携で看護師による健康管理も行っている。</p>		<p>高齢になると健康問題も多くなり、医師の往診や看護師の訪問看護が大きな安心につながる。健康管理ではバイタル測定や症状の観察のみでなく服薬管理や機能訓練・廃用症候群の予防など多々あるので看護計画に基づいた個別的な支援になるように検討してほしい。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	平成18年12月にターミナルの実績がある。終末期ケアの方針を作成しており、かかりつけ医や家族とも話し合っている。訪問看護師とも24時間体制の連携を行っており、本人・家族の要望にそえるように職員全員が方針を共有している。看取りに関する家族の同意書もあり、記名・捺印をいただいている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	排泄や入浴時のプライバシーの確保はもちろん一人ひとりの生活を尊重し、プライバシーに配慮した支援を行っている。個人情報については他へ洩らすことがないように管理者・職員全員で徹底して取り組んでいる。記録などの書類は、2階の事務所に保管・管理している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	日々の暮らしを本人が主体となって生活することが基本であり、常に入居者の希望を優先した暮らしが送れるように支援している。入居者は日々の暮らしの中で、居室掃除・カーテン閉め・洗面所洗い・洗濯物たたみ・野菜の日付け貼り・牛乳パック切りなど、できることを行っている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	食事は1日の暮らしの中で大きな楽しみであり、できる人は食事の準備・後片づけを手伝ってもらっている。職員に調理担当のエキスパートがおられ、味付け・盛り付け・量など入居者の好みを十分に配慮し、食事を楽しみにしていただけるように取り組んでいる。月1回の外食も楽しみにしていただけるように取り組んでいる。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	基本的に2日に1回の入浴を目標にしている。本人の希望を聞いて、入浴したい日や時間に合わせて入浴してもらっている。入浴は身体の清潔上、大切であるので拒否される方へはタイミングを合わせたり、フットケアなども希望に応じて行っている。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	月1回、生け花教室を開催し、それぞれ個性を発揮し、生け花を楽しんでいる。また、好みに合ったレクリエーションや英国式リクソロイジャー・フットバス・マッサージチェアなどでリフレッシュしてもらっている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	ホーム付近の散歩やドライブはほぼ毎日行い、少しでも屋外へ出るように支援している。美術館や金比羅公園など、近くにつづる場所も多くあるので行事計画にも取り入れている。また、職員が出かける際には、入居者に声をかけ、1人でも一緒に外出できるように支援している。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	日中は居室や玄関の鍵はかけていない。時としてふらりとホームを出られたりするので、入居者の安全確認のために時折声かけや見守りを行い、鍵をかけないケアを実践している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回防災訓練を行っている。日頃より近隣の方に災害時の協力をお願いしている。また、訓練には町内会の代表に参加していただき、緊急時の協力をお願いしている。		災害の発生や規模は特定できず対策については完璧という事はない。建物の構造上、日頃より確実な避難訓練・誘導ができるように年間を通じた訓練を繰り返してほしい。また、職員だけの誘導には限界があるので、更に地域の協力体制をお願いしたい。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	栄養士による高齢者にふさわしい献立表が作成されている。調理は入居者の状況に合わせ食べやすいように工夫し、食欲が増加するように支援している。水分量の確保については、再度、必要量を確認し、各自必要量が摂取できるように工夫が望まれる。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	民家改造のため、昭和のなつかしい窓ガラスなど風情があり、これまでの歴史を感じる共用空間となっており、落ち着いた雰囲気の中、ゆったりと過ごすことができるようになっている。共用空間からは、手入れの行き届いた日本庭園が見え、紅葉を楽しんだり、季節感を感じる空間となっている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室の間取りが統一されたものではなく、自宅の居間と同じ感覚である。その中に自宅から持参した筆筒・ベット・仏壇などがあり、家族や友人の写真が飾られ、入居者の個性を大切に空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			